

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

園芸畜産課 野菜係

No. 11 (令和5年6月1日)

J A福岡京築スイートコーン部会が県庁で PR、販売促進活動を行いました

～美味しいスイートコーンをお届けします～

J A福岡京築スイートコーン部会が県庁を訪問し、スイートコーンの販売促進活動を行いました。

スイートコーン部会では、38名で15.7haの作付けています。ゆうパックを主体に、消費者の声を直接聞く特徴ある販売を行っており、京築スイートコーンのファンの期待に応えるよう、部会員一丸となって品質の向上に力をいれています。

スイートコーンの出荷開始目前となった5月26日に、スイートコーン部会長およびJ A職員が、福岡県農林水産部関係課を訪問し、今年の生育状況の説明と共に、甘くて美味しいスイートコーン「京築の恵み」の魅力を紹介しました。また、コロナ禍で実施できていなかったロビーでの対面販売を3年ぶりに実施し、多くの方にPRしました。

本年のゆうパックの出荷開始は6月1日からで、15,000ケースの出荷を目指しています。

普及指導センターでは、関係機関と協力し、高品質のスイートコーンを安定的に生産できるよう、引き続き支援を行っていきます。



「京築の恵み」の魅力を紹介する
スイートコーン部会長



県庁ロビーでの販売会

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

地域振興課 水田農業係

No. 12 (令和5年6月30日)

農事組合法人国見営農組合が次世代の担い手との 意見交換会を開催

～地域農業の持続的な発展を目指して～

令和5年6月25日(日)、築上町の農事組合法人国見営農組合が「次世代者のつどい」を小原農業集落センターで開催し、地域の若者9名や組合の役員、関係機関等23名が出席しました。このつどいの目的は、地域の若者が組合と関わるきっかけを作り、地域農業の発展に向けた次世代の担い手を確保・育成につなげることです。

つどいの開催に向けて、役員と普及指導センターで組合員を対象に実施した意向調査の集計・分析及び資料作成、関係機関(築上町役場、普及指導センター)による若者からの意見が出やすい環境づくりのための協議など、組合と関係機関が連携し、入念な事前準備を行いました。

つどいでは、まず組合長が、組合設立までの経緯やその必要性、現在の経営実態・経営課題、そして今後目指す将来像について、参加した若者に熱く語りかけました。

続いて、普及指導センターから、事前に集計した組合員を対象にした組合に関する意向調査のアンケート結果に沿って、経営参画に向けた具体的な手法について情報提供しました。

若者からは、「これまで営農組合に関わってこなかったが、今後は関わりと決めた。」「農作業を体験したい。農業機械の試乗会を開いてほしい。」「自身の業務を調整して農作業できる日がある。事前に教えてほしい。」などの前向きな意見・提案が出されました。

普及指導センターは、今回の事例を参考に、今後も地域農業の発展を目指す営農組合の担い手確保の取組みを支援していきます。



若者達(会場前列)に営農組合の将来像を熱く語りかける組合長

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

地域振興課 水田農業係

No. 13 (令和5年6月30日)

苧田小学校で小学生が大豆について学ぶ

～次世代を担う子供たちに農業に関心を持ってもらうために～

令和5年6月16日、苧田町立苧田小学校の3年生約100名に総合的な学習の一環として、普及指導センター職員が大豆についての授業を行いました。

授業では、福岡県の大豆生産量や大豆から作られる食べ物、福岡県農林業総合試験場が開発した新品種「ふくよかまる」の特徴、大豆の育て方や大豆栽培で使用する機械(トラクター)について、写真やグラフを使いわかりやすく説明しました。また、生徒へ実際に大豆の粒を見せたことで豆の色や形、大きさに関心を持った様でした。

授業の中で行われた大豆に関するクイズ形式の説明については、生徒が回答の正誤に一喜一憂する姿がみられました。生徒からは県内の主要な大豆品種「フクユタカ」に関して、名前の由来や他品種との違いについての質問も出て、今回説明を受けたことで大豆についての理解が深まった様でした。

普及指導センターは今後も次世代を担う子供たちへの食育に取り組み、地域農業への理解を深めるための支援を行っていきます。



授業の様子

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290
E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp
地域振興課 水田農業係

No. 14 (令和5年7月5日)

水田の畦畔管理の省力化はどうする ～豊築集営連でオペレーター研修会を開催～

6月27日に、豊築地域集落営農組織連絡協議会（豊築地区の集落営農組織44組織が加入）主催で「水田畦畔管理に関するオペレーター研修会」が開催され、各組織の役員、関係機関約30名が参加しました。集落営農組織では、水稻、麦、大豆を主に栽培していますが、夏場の水田畦畔等の草刈り作業が大変で、何とか省力化が出来ないかということで今回の研修会が企画されました。

研修会では、まず農機メーカーによる最新の草刈機（ラジコン草刈機、法面草刈機）の実演がありました。水田の法面は傾斜が急で、法面草刈機等の操作がやや難しく、まだ改善の余地もあるように感じられました。管内では法面草刈機や自走式草刈機等の普及台数が年々増加し、今後は作業性、操作性やコスト面を考慮した機種を選定が重要だと思われました。

次に、除草の回数を減らすための抑草シートや抑草剤等の紹介がありました。最後に、草刈り作業をうまく運営している築上町の農事組合法人日奈古もんじゅ営農組合が事例報告をしました。普及指導センターからは、カバープランツの事例や農作業安全について説明しました。

参加者からは、「人件費と草刈り機等の導入コストを比較して検討したい」「草刈りを組合員等に委託する場合、農作業事故が心配だ」等多くの質問が出され、畦畔管理の省力化を何とかしたいという気持ちが強く伝わってきました。

普及指導センターでは、今後も草刈り作業等の負担軽減に関する情報提供を行っていきます。



ラジコン草刈機等の実演

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

園芸畜産課 花き畜産係

No. 15 (令和5年7月12日)

大型扇風機の掃除による風量アップと省エネ効果

～暑さと物価高に負けない畜産経営を目指して～

家畜の健康と生産性を高める上で、暑熱対策は非常に重要となります。暑熱対策としてほとんどの畜産農家では直径1mほどの大型扇風機を畜舎内に設置しています。一方、扇風機の稼働に伴う消費電力は多大であり、畜産経営に大きな負担を与えています。

大型扇風機は使用していると、羽根や安全カバーにホコリが付き送風能力が低下します。そこで、普及指導センターではふくおか県酪農業協同組合の協力のもと、インバーター制御している場合でのホコリ掃除と風量と周波数の関係を調査しました。

その結果、ホコリ掃除により、風速が5～6%高まりました。また、同じ風速を得るための周波数を7～8%下げることができ、理論上、消費電力は20%程度節減できると考えられました(注:ホコリの付着状況や扇風機の形状等でこの数値は異なります)。今回の調査では、扇風機に付いたホコリはそれほど多くなく、掃除時間も1台数分と短時間で済みました。しかし、こまめな掃除は労力がかからず良いとはわかっていても、ホコリが少ない状態では「まだいいか」と作業を先延ばしにしがちです。今回の結果で、少ないホコリでも掃除効果は大きいことが明らかとなり、作業モチベーションの向上が期待できます。

普及指導センターでは、畜産経営の安定を図るため、今後も関係機関と連携し、暑熱対策や省エネ技術の実施等の支援を進めていきます。



掃除後の扇風機



高枝ハサミ（切れないように刃にテープ巻）で固定しながらデッキブラシで掃除

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290
E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp
地域振興課 水田農業係

No.16 (令和5年8月10日)

水稻種子の良質・安定生産に向けて関係者で協議

～優良種子の生産に向けて課題を洗い出す～

京築地域では、水稻採種ほが23.8ha設置されており、農業者と関係機関が連携して優良種子の生産に取り組んでいます。しかし近年は、異常気象やイネカメムシ、トビイロウンカといった突発的な病害虫の発生により、種子の良質・安定生産に苦慮しています。

そこで、令和5年7月13日(木)に、優良種子の安定生産に向けてJA福岡京築、福岡県米麦品質改善協会行橋支部と京築普及指導センターで対策会議を開催しました。

会議では、現在の病害虫の発生状況や今後の管理作業の情報を共有した他、水稻種子の良質・安定生産に向けて、一対比較要因分析を用いて検討しました。分析により、京築地域の水稲種子の生産における課題の順位付けと重要度を明らかにし、水管理や適期収穫等を徹底することを確認しました。

今後、この結果を農業者と共有し優良種子の生産に向けて取り組んでいきます。



JA福岡京築、品改行橋支部、普及指導センターで分析

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

地域振興課 水田農業係

No.17 (令和5年8月10日)

インボイス制度への対応について学ぶ

～集落営農組織、土地利用型農家等を対象に研修会を開催～

8月4日に、築上町コミュニティーセンターにおいて、京築地域農業・農村活性化協議会水田農業振興部会主催で研修会が開催されました。令和5年10月1日から始まるインボイス制度に対する理解を深めてもらう目的でとしています。当日は、管内の集落営農組織の役員、土地利用型農家と関係機関約100名が参加しました。

講演では、JA福岡中央会JAグループ福岡担い手サポートセンターのアドバイザー税理士より、消費税の仕組み、インボイス制度の内容及びその対応等について説明がありました。参加者からは、「任意組合がインボイスを発行するには全構成員が発行事業者にならなければならないのか」、「インボイスの保存期間は何年か」、「他の営農組合に作業委託した場合はどうなるのか」などの質問があり、アドバイザーが丁寧に答えていました。

研修会終了後のアンケートでは、参加者の多くは概ね理解できたと回答し参考になったようでした。また、「具体的な会計処理等を聞きたい」、「再度研修会をやってほしい」等の意見もありました。

普及指導センターでは、今後も担い手の経営力強化を支援するため、要望に応じた研修会を開催していきます。



熱心に聞く生産者

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290
E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp
地域振興課 水田農業係

No.18 (令和5年9月4日)

行橋市二塚地区において伝統の水稲互評会を実施

～144年続く伝統のバトンをつなぐ～

行橋市二塚地区では、長年にわたって水稲の生育状況と収量性について互評会が実施されています。本年度で144年目にあたり、田植え後から普及指導センターが講師となって水稲の生育状況を学びつつ、その年の気候や水稲の生育状況に合わせた栽培管理を行っています。8月31日に、地区内の5名のほ場でそれぞれ水稲を手で刈り取り、JA福岡京築や普及指導センターと協力して脱穀を行い、収量評価を行いました。

今年が多照で、水稲の生育は順調に進み、収穫した米は粒が大きく、どの生産者のほ場でも例年になく高い収量でした。

参加した農業者から、「今年も夏が暑く、心配していたが、収量がとれていてよかった」「今後もこの取り組みを継続したい」「地区の農業者の減少と後継者不足が課題」といった声がありました。

普及指導センターは、今後も水稲の栽培管理を通じて地区の農業を守る農業者への支援を行っていきます。



刈った水稲の脱穀

脱穀した籾を選別

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

地域振興課 地域係

No. 19 (令和 5年9月7日)

福岡県新規就農・就業相談会 i n 京築を開催！ ～新規就農・就業者の確保に向けて～

令和5年8月19日に、管内の市町やJA等で構成される京築地域農業・農村活性化協議会担い手部会が「福岡県新規就農・就業相談会 i n 京築」を、行橋商工会議所にて開催しました。この取組は、京築地区の新規就農・就業者を確保するため例年実施されており、今年度は就農・就業を希望する15名が来場しました。

当日は各市町、JA 福岡京築、福岡県農業振興推進機構、農業大学校、後継人材育成室の計11ブースを設け、参加者に対して事前に聞き取りを行ったうえで、それぞれ興味があるブースへと案内しました。各ブースでは、地域の実情や就農支援制度、就農・就業をするための準備などの説明および相談を行いました。

参加者からは、「各市町の支援制度の話を知ることが出来て良かった」、「色々な機関から情報を聞くことができた」といった声がありました。

京築普及指導センターでは、今後も関係機関と協力し、新規就農者の確保・育成に取り組んでいきます。



各ブースで熱心に説明を聞く就農就業希望者

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

地域振興課 水田農業係

No. 20 (令和5年9月7日)

京築大規模土地利用型農業研究会の研修会が開催されました

～ 農業資材の情勢を学び経営に役立てよう ～

令和5年8月18日、「京築大規模土地利用型農業研究会」の研修会が開催され、会員や関係機関等約15名が出席しました。

研修会では、昨今の農業資材情勢をテーマにJA全農ふくれんと肥料メーカーの担当者を講師に迎え、肥料等資材の価格高騰の背景（原材料、輸送費、加工費の高騰等）、原料輸入相手国の割合の変遷、プラスチック被覆肥料の海洋流出防止に合わせた仕様変更などについて説明がありました。

会員からは、今後の農業資材の価格動向や、新規被覆肥料の使用法についてなどの質問があり、活発な意見交換ができました。

普及指導センターは、今後も本研究会の計画に基づき、会員の自己研鑽を促す機会を設け、農業者の経営支援を行ってまいります。



熱心に講師の話を聞く会員